2023/03/03

大震災後の生きざまたどる　相次ぎ記録映画公開　長野県内でも

「生きる　大川小学校津波裁判を闘った人たち」の一場面（（c）２０２２　ＰＡＯ　ＮＥＴＷＯＲＫ　ＩＮＣ．）

東日本大震災から１２年。被災者の生きざまをたどったドキュメンタリー映画が相次ぎ公開されている。

風間研一監督の「ただいま、つなかん」は、宮城県気仙沼市の民宿「唐桑御殿つなかん」に集う人々の物語だ。

夫とカキを養殖していた女性は自宅が津波の被害に遭う。だが、ボランティアの学生に宿舎として貸したことから、改修して民宿に。女性を慕い移住した若者に支えられ、前を向く。

気仙沼の復興を支援する俳優の渡辺謙がナレーションを務め、女性と交流のあるコピーライターの糸井重里らも登場する。

児童や教職員計８４人が亡くなった宮城県石巻市立大川小学校の津波被害を扱ったのは「生きる　大川小学校津波裁判を闘った人たち」である。

監督の寺田和弘は児童の父母の信頼を得て、市教育委員会の説明会などを記録した映像を入手。自らの取材と併せ、「あの日、何があったのか」を追究する遺族の活動を観客が追体験できるように構成している。

「ただいま、つなかん」は１０日から長野市の長野相生座・ロキシー（電話０２６・２３２・３０１６）。４月１６日午後１時からＮＰＯ法人コミュニティシネマ松本シネマセレクト（電話０２６３・９８・４９２８）が松本市中央公民館で上映する。

「生きる　大川小学校津波裁判を闘った人たち」は長野相生座・ロキシーで３月１０日から、上田市の上田映劇（電話０２６８・２２・０２６９）で１１日から。１１日は上田映劇で午前１０時からの上映後に寺田監督と制作協力の会津泉・多摩大教授が、長野相生座・ロキシーで午後１時４０分からの上映後に寺田監督が舞台あいさつする。松本市のまつもと市民芸術館では２１日午後１時半から。上映後、本作に出演している斎藤雅弘弁護士と原告遺族の只野英昭さんが話す。問い合わせは松本シネマセレクトへ。